



THE対談

梶木亮輔×和田遥菜

今回は、名古屋教育文化センターの学習塾「MEIKYO」を担当する、梶木と新任の和田遥菜先生の対談です。この対談を通して、少しでも私たちの、子どもたち、MEIKYOへの思いを知っていただけたら嬉しく思います。

こびき 今回は、遥菜先生に色々質問していきますね。簡単に、自己紹介からお願いします。

和田 はい！今年からMEIKYOの講師を担当させていただくことになりました、新任の和田遥菜です！よろしくお願いします！

こびき 遥菜先生は、以前は生徒としてMEIKYOに通っていたよね？いつから通っていたの？

和田 中学2年生から中学3年生の2年間通って、高校3年生でまた戻ってきました。

こびき 大学生の時もアルバイトとして来てもらっていたから、そう思うと結構長いね。中学・高校・大学と通って、MEIKYOの先生になっているわけだけど、先生になろうと思ったきっかけはある？

和田 養護教諭を目指して大学に入ったんですけど、実際に勉強してみて、養護教諭の知識をもっと別のところで活かしたいと考えるようになりました。保健室だけだと、自分のやりたいことや考えが、保健室限定になってしまうと感じて…。ここだったら、それを生徒の勉強面や成長面で活かせるのではないかと考え、働きたいなと思いました。

こびき なるほど！実際に今、MEIKYOの先生として子どもたちを見ていて楽しい？

和田 楽しいです！学校という集団の中だと、生徒自身の本音が聞きにくいけど、MEIKYOという学校とはまた違った環境の中だと、生徒が学校での出来事を気軽に話してくれたり、素で会話できたりと、ありのままの子どもたちと交流できるのが好きですね。

こびき たしかに！みんな割となんでも話してくれるよね。私も、子どもたちのプライベートの相談に乗っているときに、信頼されている気がして一番やりがいを感じるかも。遥菜先生も、どんどん子どもたちの悩みや魅力を引き出して行ってください！

和田 はい！頑張ります！

こびき ちなみに、理想の先生像はありますか？

和田 最近、色々考えてみて…。私は、日本テレビの水トアナウンサーのような先生になりたいです。

こびき おお、みとちゃん！

和田 スッキリを担当していた時、加藤浩次さんの暴走を止めつつも、番組を予定通りに回したり、現在はZIPを一人で進行したりしているのを見て、アナウンサーだから面白いことを自らやるわけではないけれど、一人だけでも輝きや魅力を放っていて尊敬しています。私も、

水トアナウンサーのように、一人の人として魅力がありつつも、その場をしっかりと回せる先生でありたいと思います！

こびき 素敵ですね！私が暴走しそうだったら止めてください（笑）

和田 頑張ります（笑）

こびき 子どもたちに今後どうなってほしいなど、将来像があったら聞かせてください。

和田 私は、勉強を好きになって欲しいわけではありません。めんどくさいと感じるものに対して、どのように向き合うかを考え、実行できる子どもたちを育てたいなと思っています。

こびき そうですね。私も生徒に伝えているけど、やりたい1%のことにに対して、99%のやりたくないことを我慢してやれるかっていうのは大事だね。特に、勉強はやりたいと思う子の方が少ないから、その中で必要だということに気付いて、行動できる人間になって欲しいです。そこは、MEIKYOの方針として、今後も大切にしていきたいですね。将来のMEIKYOが目指す姿を、なにかイメージしていますか？

和田 そうですね、まずはもっとMEIKYOを知っていただきたいです！そして、MEIKYOやスタンツ小学校に、たくさん子どもたちに通ってほしいです！さらに、現在スタンツに通っている子どもたちにも、ここで一緒に、小・中・高校生まで、スタンツで培ったことも活かしつつ、違った形で強みを伸ばして行って欲しいなと思います。生徒たちに、ここで過ごせてよかったと思える塾を目指していきたいです！

こびき そうだね、今年から小学生のプログラムが変わって、以前より多くの小学生が通えるようになりましたね。小学生以上の子どもたちにももっと楽しんでもらいたいし、MEIKYOをもっと知ってもらいたいなと思います！そして、名古屋教育文化センターを全体で盛り上げていきましょう！

MEIKYOでは、勉強以外にも月に1回、土曜日に小学生対象の理科実験を開催中です！MEIKYOの理科実験は、「身近なものから理科を学ぶ」をコンセプトに活動しています。

無料イベントになりますのでお友達も誘って、私たちに会いに来ていただけると嬉しいです！



対談の様子
右：梶木亮輔先生
左：和田遥菜先生

かあ先生が 子どもの「今」を見つめる



「かあ先生、これ見て！」

スタンプが終わった帰りのバスの中で、年長さんの男の子に声をかけられました。鞆の中から紙を取り出して見せてくれたのは、蟬の写真と、写真についての説明が書かれたレポート。

「朝にね、羽化したんだよ。羽が透明で凄くきれいだった！」
御家族で初めて観察したクマゼミの羽化。この感動を伝えたいと、男の子は思ったのです。とても温かみのある、丁寧なレポートです。

そして数日後、今度は別の男の子（年長児）から、朝顔の観察ノートを見せてもらいました。5月にスタンプからもらった朝顔の種を蒔いて、自分で育ててみたのです。双葉から本葉に変わるまでの様子を、絵と文章で記録しています。本葉の葉脈、双葉の形等、その子がどれだけ真剣に観察をしたのか、手に取るように伝わります。写真の印刷やノートのまとめ方等、記録方法については、『クマゼミの羽化』も『朝顔の観察』も、保護者様のさりげない指導が入っています。

「かあ先生、金魚のウンコはお尻にくっついてるんだよ！」
ちなみに金魚の観察も継続しています。こちらは2年目。地道に続けているからこそ、そんなユニークな発見ができるのです。御家族と一緒に調べて、記録に残す。とても素敵な家庭学習だと思います。

時々、保護者様から「小学校就学までに、どんな勉強をさせたら良いですか？」と、ご相談を頂きます。決まってお答えしているのは、「家庭学習をされると良いですよ。」と。理科研究の他にも、色々な学習があります。アウトドアの知識や技術を取得する、好きな絵本を読んで感想を書く、美味しいお茶の煎れ方を知る、星を観察する等、御家族と一緒に得た知識や経験は、必ずお子様の自信に繋がります。小学生になっても、家庭学習はとてもオススメです。

夏休みは終わりますが、今から初められても十分楽しめますよ！

酒向 が遊びで育む ココロとカラダ



今年も暑い夏になりましたね。夏バテなどで体調を崩す方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そんな暑い夏の中、スタンプの子どもたちは、元気よく園庭や公園、川などで思いっきり水遊びを楽しんでいます。

「日差しがきつい時間にわざわざ外で遊ばなくても…」と、心配される方もいらっしゃると思いますが、この時期に外で思いっきり遊ぶことによって、子どもたちの「ココロとカラダ」に変化（成長）がみられます。

まずは「ココロ」。春の間は「自分のことだけ」で精一杯の子どもたちも、少しずつ「思いやり」や「たすけあい」という気持ちが芽生え、私のクラスでは、子どもたち同士で声をかけあう姿がみられます。「川こわい？手つないであげるよ！」「一緒にこれやって遊ぼうか？」など、子どもたちから自然と聞こえてきています。

次に「カラダ」。暑い夏の間、涼しい部屋の中ではなく、あえて外で遊ぶことで、子どもたちのカラダにある「体力」がどんどんついてきます。

右下の写真のように、川の中を思いっきり走るの、大人でも大変なことですね。（流れに逆らって走ることはもっと大変）

これを夏の間（約1か月）ほぼ毎日川の中を、跳んだり、跳ねたり、走ったりして楽しく遊んでいる間に、知らずについてきます。

まだまだ水遊びは続きます！
もっともっと「ココロとカラダ」を成長させるために、思いっきり遊びたいと思います。
2学期の山遊びや、マラソン（スクールクラス）が今から楽しみです！



椛木が 思う！ 「遊び」と「学び」は一对！



MEIKYOでは、教育方針として、自己肯定感を高めるということを掲げています。先日、私が購読しているメルマガに、「自己肯定感が人間関係を形成する」という記事を見たので、少しだけ紹介させていただきます。

自己肯定感が高いとは、自分の存在には価値があると、自分自身で認めることができている状態のことです。子どもたちの主体性に、この自己肯定感は欠かせません。しかし、日本人は、比較的自己肯定感が低いのです。

自己肯定感が低くなってしまいう主な原因として、他者との比較があるそうです。実際に周り比べてしまうというケースは、塾でもよく目にします。例えば、テストの点数。子どもたちは前回より点数が上がっていることよりも、平均点を超えられなかったことを気にします。

比較をするのであれば、他者とはではなく、自分の中での比較をするべきです。「自分にできることを見つけ、それを伸ばす」。自分にできることが見つからないという子は、「過去の自分より伸びている部分を見つけ、それをさらに伸ばす」。過去の自分と比べると、できることは確実に増えているはず。どんな些細なことでも構いません。私は、「昨日の自分よりも成長するために1つでも何かを吸収し、毎日が自分史上最高であることを目指そう」と、子どもたちに伝えています。周り比べて悲観的になるのではなく、今までの自分よりも成長しているということに自信を持つべきです。そこから、自分自身の心が満たされれば、相手の長所が見えるようになります。長所が見えれば、相手を尊重するようになります。逆に、自分の心が満たされていなければ、相手の短所ばかりが見えてしまいます。

同じ時間を過ごすのであれば、より楽しく、よりワクワクがある時間にしたいものです。私たち大人のちょっとした言葉が、子どもたちのものの見方を変え、より充実した時間を与えるきっかけになるのではないのでしょうか。

川合がお届けする

「センター」×「わくわく」= ?



「将来のゆめについて！」

先日、子どもたちとこんなやりとりをしていました。

「みんな大きくなったら何になりたい～？」
という私からの質問に、子どもたちからは様々な答えが返ってきました！

「新幹線の運転手になりたい！」「昆虫博士になりたい！」
「ケーキ屋さんになりたい！」「先生になりたい！」などなど。私の近くにいた子どもたちは、質問してすぐにたくさんの素敵な夢を教えてくださいました。過去には、「森で虫たちと暮らしたい！」という夢も、魅力的に感じたことを懐かしく思い出しました。

そんな将来の夢。皆さんは、子どもの頃の夢を覚えていますか？
私も、保育園時代の夢を当時のアルバムにて発表しており…

「カッコいいゴリラになる！」「サンタさんになる！」でした。笑
ちょっと恥ずかしい夢ですが、その後は当時の保育園の先生に憧れを抱き、「先生」を目指してここまで頑張ることが出来ました。

「夢」を持つ。簡単そうに見えて、実は少し難しいことですよ。最近、夢を持たない子どもたちが増えているという記事や、ニュースを見る機会が増えたように感じます。しかし、センターに通う子どもたちは、たくさん夢をきらきらした表情で語ってくれます。夢は、子どもたちにとって今後の大きな武器になると思っています。そんな夢は、子どもたちが日々の日常から見つけた「好き」が、大きく影響していると感じています。好きを見つけ、それに対して没頭していく。そんな習慣は、日々の生活の中で自然と身につけているスタンプっ子ならではの姿だと、改めてスタンプの魅力を感じました。また、そんな夢や未来に対して、共感し楽しく語り合う関係性が嬉しく、センターの先生である私たちの役割だと改めて感じる事が出来ました。

最後に、「夢って先生たちもある～？」と、年長クラスのある男の子から質問されました。面白い質問ですよ。夢に年齢は関係ありません。私の今の夢についてどこかでお話したいと思えます！今後も、そんな子どもたちの夢の味方でい続けられるよう頑張ります！

【お詫びと訂正】
先月発行しました「たいよう7月号」にて、中野が遊びで育むココロとカラダと表記しましたが、正しくは、筒井が遊びで育むココロとカラダでした。（裏面・右上）大変失礼いたしました。